学校的側面に着目した旧奈良少年刑務所の環境醸成に関する研究

- 監獄建築における少年刑務所としての活動と空間の展開 -

A STUDY ON ENVIRONMENTAL FOSTERING OF NARA JUVENILE PRISON
FROM THE PERSPECTIVE OF "SCHOOL"

-Adaptation of Juvenile Prison Program in Modern Prison Architecture-

太田 裕通^{*1}, 原 泉^{*2}, 神吉紀世子^{*3}

Hiroto OTA, Izumi HARA and Kiyoko KANKI

Focusing on the Nara Juvenile Prison, this study reveals the process of adaptation of juvenile prison program in modern prison architecture from the perspective of "school". Through literature review, field research, and interviews, the following was revealed. The unique environment of Nara Juvenile Prison was related to its treatment based on the educational philosophy from 1946, its spatial configuration that was not seen in prisons after the end of the Taisho-era, its location on a hill in Nara City, the fact that Juvenile inmates were mostly first-time offenders and security was good, and its acceptance by the local community.

Keywords: Nara Prison, Nara Juvenile Prison, Important Cultural Property, Local Community, Interview, The Perspective of "School"

奈良監獄, 奈良少年刑務所, 重要文化財, 地域社会, ヒアリング, 学校的側面

1. 序論

1-1. 問題の所在：旧奈良少年刑務所における学校的側面への着目

旧奈良少年刑務所（以下奈少刑）は旧監獄法が制定された 1908（明治 41）年、明治五大監獄の 1 つである奈良監獄として建設され、1946 年に少年刑務所に改称、2017 年に廃庁となった。さらに同年、主として明治竣工部分が重要文化財「旧奈良監獄」となり、現在文化財指定建築部分（Photo 1 点線部分）のみ残し複合宿泊施設整備が進められている。109 年間同じ場所で機能したが、うち約 70 年は少年刑務所であったことから、文化財建造物としての監獄建築だけでなく、教育分野において先駆的処遇手法を執ってきた施設²⁾として、所外奉仕活動等様々な形で地域社会との関係が築かれてきた経緯も含めた評価が必要である。そもそも刑務所の役割は、大きく

Photo 1 Bird's-eye perspective of Nara Juvenile Prison
(Source: Legal Affairs Bureau¹⁾, partially added by the author)

「刑の執行」、
「再犯防止に向
けた取り組みを
行うこと」の 2
つであり、それ
らを達成する為、
受刑者に対して
作業・改善指
導・教科指導を
基本とする矯正

処遇が義務づけられているが、一般的には作業を中心とする刑執行の側面が強い³⁾。一方、少年刑務所では少年受刑者の特性（心身が発達段階にあり、可塑性に富む等）に応じた処遇が目指され、小・中学校の教科内容に準じた指導を含む教科指導を重点的に行うこと等が特徴であり⁴⁾、それに相応した空間も必要となる。そこで本研究では、刑務所における刑の執行に関わる処罰的側面と、受刑者の再犯防止を目的とした教育的側面を区別し、特に少年刑務所における、少年受刑者の社会復帰の為に地域社会との関わりを含めて教育的側面を重視するという特徴を「学校的」と定義する。ここでの学校とは、生徒 1 人 1 人に対応した教育の提供を目指し、その舞台として地域社会も含むような現代の学校を指す^{注 1)}。

1-2. 目的と方法

本稿では、奈少刑の学校的側面に着目し、明治期から存在する監獄建築及び所内外の周辺環境に対して、少年刑務所の活動や空間がどのように適応し、展開されてきたかを明らかにする。109 年のうち約 70 年掛けて醸成されてきた少年刑務所の環境は、文化財として保存されなかった部分も多く、本稿はそれを詳細に記述した資料としても重要である。研究方法は以下である。奈少刑に関する調査内容とその環境醸成の特徴を理解するため、全国の少年刑務所 6 施設の内、奈少刑と同様に犯罪傾向の進んでいない受刑者が収容され、先駆的教育を実施してきた現役の川越少年刑務所^{注 2)}の現地調査から、少年刑務所における学校的側面（活動と空間）を把握する（2

^{*1} 武蔵野大学工学部建築デザイン学科 専任講師・博士（工学）

^{*2} (株)日建設計 修士（工学）

^{*3} 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授・博士（工学）

Senior Lecturer, Faculty of Eng., Musashino Univ., Dr.Eng.

Nikken Sekkei Ltd., M.Eng.

Prof., Graduate School of Eng., Kyoto University, Dr.Eng.

章)。次に既存資料で得られる情報の整理から奈少刑における学校的側面を示し、平面図や土地変遷を追った配置図の作成等を通して奈少刑及び旧奈良監獄についての空間構成を把握する(3章)。さらに、現地ヒアリング調査を通して奈少刑の実態を把握し、2、3章で得た基礎情報と重ね合わせ、監獄建築で少年刑務所の学校的側面はどのように適応、展開されてきたか、奈良市内に立地する奈少刑の特徴は何か、といった論点から総合的に考察する(4章)。

1-3. 既往研究と本研究の位置づけ

少年刑務所を問わず、刑務所全般に関わる既往研究は、法学、心理学、医学、社会福祉学などの分野での蓄積がある一方で、建築・都市計画学、地理学等の分野では建築計画や都市との関係を扱ったものは見られるものの、その実態把握は困難であり数は多くない。例えば、西原ら(1995)による明治以降の刑務所配置の特性に関する研究や⁶⁾、亀屋ら(2008)による監獄建築の空間に関する研究⁷⁾、佐藤ら(2012)による近代日本における刑務所建築と都市の関係性に関する研究⁸⁾等に共通するのは、対象が監獄建築はじめ廃庁したものを扱っている点である。刑務所の特殊性ゆえ、現役の施設では入手できる資料に限りがあるからであると推測される。その他の分野で地域受容を扱ったものもみられる。例えば関口(2009)は旧長崎刑務所の解体と諫早市のまちづくりの関係をとり上げ、現役時代は迷惑施設でなかったが、郊外移転後の放置による廃墟化により、解体に至ったことを明らかにしている⁹⁾。横田(2014)は北海道を対象として行刑施設と地域との関係性を調査し、行刑施設と地域社会は共存可能であること、両者の関係性において発展的方向性を示すことが可能であることを結論としている¹⁰⁾。これらの研究では刑務所が必ずしも迷惑施設でないことが示されている。以上を踏まえると本研究は、刑務所建築という希少な研究対象を扱い、廃庁後間もない調査により奈少刑の実態を把握出来た点、特に地域社会も含む少年刑務所の活動と空間を明らかにする点において独自性がある。

2. 少年刑務所における学校的側面

明治期の監獄建築を活用した奈少刑の特徴を理解するため、本章では法務関係資料から少年刑務所における処遇^{注3)}について整理し、現役の川越少年刑務所を対象とした現地調査から、少年刑務所における学校的活動^{注3)}と空間の対応について明らかにする。

2-1. 少年刑務所における処遇と受刑者の生活

日本において少年刑務所は1922(大正11)年に発足し、大正末期から昭和半ばまで「少年行刑」という新しい処遇分野を大胆に発展させ、日本の行刑実務に教育刑思想を浸透させていく上で重要な役割を担っていたとされる¹¹⁾。1922年以前も少年受刑者を成人受刑者から分離し教化的処遇を行っており¹¹⁾、少年刑務所は発足当初から教育を重視していたことが分かる。入所から釈放に至る一連の教化的処遇を効果的に行う上で、施設内の教育的な風土もしくは雰囲気醸成する必要があるため、監獄の気風を脱するための工夫(例えば少年を「番号」ではなく「氏名」で呼称する、職員の服装を教育的指導者にふさわしいものに改める等)が凝らされていた¹²⁾ことは学校的側面の根拠として特筆に値する。また教化・実科教育について、1933(昭和8)年には「少年行刑教育令」が制定され、それまで各施設に委ねられていた教育実施方法を統一的に運用し、学科成績も改善度の評価基準とすることが定められる等¹²⁾、教育的風土

Table 1 Daily Routine of Sentenced Inmates
(Source: PENAL INSTITUTIONS IN JAPAN¹³⁾)

時間/Time	活動/Activity
6:45	起床/Rise
7:00	点検/Roll Call
	朝食/Breakfast
	工場へ移動/Move to Works
8:00	作業開始/Start to Work
10:00-10:30	運動/Exercise
12:00-12:40	昼食等/Lunch
14:30-14:40	休憩/Short Break
16:40	作業終了/End of Work
	入浴/Take a Bath
	居室へ移動/Move to Room
17:00	点検/Roll Call
	夕食/Supper
18:00-21:00	余暇時間/Free Time
21:00	就寝/Lights Out

が高められてきたという。一般に刑事施設^{注4)}における受刑者への矯正処遇は「作業」「改善指導」「教科指導」の3つの柱からなる¹³⁾。「作業」はさらに「一般作業(生産作業・自営作業・社会貢献作業)」と「職業訓練」に分けられる。矯正処遇に関わる一連の流れは、入所、刑執行開始時指導、矯正処遇の実施、釈放前指導、出所となる¹³⁾。受刑者の平日における生活は施設によって違いはあるが、概ねTable 1のようにになっている(2019年時点の総務省資料より)。矯正処遇の「作業」「改善指導」「教科指導」は主に日中の作業時間内に行われ、夜はクラブ活動や集会といった余暇活動が設けられている。成人受刑者に比べて、少年受刑者に対しては「一般作業」よりも「改善指導」と「職業指導」の比重が多く、曜日毎に各種学習支援、情操教育、教養講座等の時間が毎日設けられていることが特徴³⁾であり、これも学校的側面の一部である。

2-2. 川越少年刑務所にみる学校的活動と空間

川越少年刑務所は前進の川越分監が特別幼年監に指定され、分監を川越児童保護学校と称して、明治30年代では先駆的な教育的処遇を展開していた¹¹⁾。また、総合職業訓練施設指定、性犯罪再犯防止指導の推進基幹施設指定を受ける等¹⁴⁾、奈少刑と類似点も多い現役の少年刑務所の一つである。

2018年11月30日13時半~16時半において、川越少年刑務所の現地調査と職員へのヒアリングを行った^{注5)}。Fig. 1は航空写真と現地調査をもとに作成した大まかな配置図である。現施設は1969年に旧施設から新築移転されたものであり、奈少刑とは異なり少年刑務所として設計されている。堀切ら¹⁶⁾によれば明治・大正期の監獄建築は敷地をすべて牆壁で囲い、表門と事務所の間に広場を設ける配置であったのに対し、大正末期以降の刑務所は敷地内を堀によって「庁舎区域」と「行刑区域」を分け、さらに「行刑区域を」を「舎房区域」と「工場区域」に区画する計画となっており、これはFig. 1からも確認できる。堀の外に庁舎とエントランス広場を設け「官庁」

としての正面を作り、庁舎には中門と呼ばれる二重扉が存在し、その先が「行刑区域」になっている。尚、庁舎内に受刑者が施術する理容室があり、訪問者が入れるのは庁舎までである（Fig.1 の点線網掛）。一方塀の内側も明確にゾーニングされている。受刑者は主に舎房と工場を行き来する生活であるが（Table 1 参照）、それらの中間領域に、木の学習机と椅子の並ぶ教室、慰問や集会が行われる講堂、少年受刑者が季節の花を植えられる花壇のある中庭やプール等の学校的な空間があることがわかった。工場の一角には成人受刑者と隔離された、少年受刑者の作業場があり、命の大切さに触れるためのメダカ飼育や園芸を行っているという（ヒアリングより）。また少年受刑者が社会と完全に断絶されたと感じないように塀を低くして圧迫感を軽減する等、教化的処遇を効果的に行うための設計工夫も明らかになった。また金子¹⁷⁾によると、川越少年刑務所は多くの外部機関と連携し各種行事参加や通信教育、社会見学や奉仕作業等の矯正処遇を実施している^{注6)}。具体的に、運動場では所内のサッカークラブが地元高校と長年交流試合をしたり、クラブ活動の発表会や文化祭が行われ来賓の外部協力者が訪れたりする等、所内における外部との関わりも確認できた（ヒアリングより）。

本章では1922年の少年刑務所発足当初から醸成されてきた学校的側面の存在とその具体的処遇内容を明らかにし、川越少年刑務所を例に学校の活動と空間構成の概要を示した。特に、大正末期以降の刑務所建築に見られる区域分けが奈少刑の特徴を把握する上でのポイントになることが示唆された。

3. 旧奈良少年刑務所の概要と特徴

本章では既往文献及び現地調査、図面作成から奈少刑及び旧奈良監獄のそれぞれの基本情報を整理し、特徴の把握を行う。尚、本章で作成した配置図や平面図は第4章以降の考察にも用いるため、他のデータと重ね合わせて記述している。

3-1. 沿革および学校的側面

奈良監獄の竣工から廃庁までの主な出来事（網掛け部分）と施設整備について記念誌¹⁸⁾ ¹⁹⁾を参照し、Table 2 に整理した。下線部につけた最右列の番号はFig.2のプロットと対応させている。先ず施設整備に関して、少年刑務所改称（1946年）以降、時勢や機能的要求に応じて施設が段階的に作られていることが分かる。また奈少刑では「改善指導」・「教科指導」以外に、少年受刑者指導や高校通信制課程の実施があり、2017年時点で全国的に見ても教育専門官の配置が最も多かった^{注7)}。こうした教育体制は、少年刑務所改称（1946年）直後、社会通信教育の開始（1949年）や高等学校通信制課程の受講開始（1954年）に始まったとされている²⁾。1950年当時から少年刑務所の特殊性に鑑み、「監房」→「室」、「受刑者」→「生徒」等呼称を制定²⁾していたことは奈少刑独自の処遇であり、これも学校的側面である。毎月最終週の日曜日に開催される保護者会（1960年第1回目開催）や²⁰⁾、教育活動の一環としてクラブ活動^{注8)}や各種行事^{注9)}が行われ、対外野球大会（1948年）や奈良県高等学校生徒弁論大会（1956年）等、昭和中期には一般社会との繋がりのある行事も見られる。また名誉寮（1948年）、希望寮（1976年）、若竹寮（1977年）と呼ばれる釈放前指導を行う居室が設けられ、該当の寮生は開放的処遇が行われた。例えば名誉寮は敷地東南に位置し、受刑者によって建築され、鉄格子も錠もなく、畳敷きの寮室と食堂、宿直室、

娯楽室を備え当時の日本刑務所では新しい試みであった²³⁾。受刑者の中でも処遇が優遇される1級者や、高校通信制課程受講者等は、集団散歩や遠足で平城宮跡、東大寺、春日大社といった奈良名所を訪れる等、一般社会に触れる機会が多く用意されていた^{注10)}。

Table 2 Timeline of Nara Juvenile Prison

1908	奈良監獄竣工/Completion of Nara Prison
1911	炊場、第3実習場完成/Completion of Kitchen and 3 rd Training Room
1918	合葬碑建立（囚人墓地改葬）、第1,2,4,5,13実習場完成/Construction of the burial monument, Completion of No.1,2,4,5,13 Workshops
1921	奈良刑務所に改称/Renamed to "Nara Keimusho"
1936	演武場完成/Completion of Martial arts training center
1946	奈良少年刑務所に改称/Renamed to "Nara Shonen Keimusho"
1947	集団散歩で奈良名所見学/Group walk to visit Nara famous place
1948	第1学習場2教室及び教官室、雨天体操場、放送室、旧名誉寮完成/Completion of No.1 Study room, No.2 Classroom, Instructor room, Gymnasium, Broadcasting room, the former accommodation "Meioryo" 対外野球大会開催/ Baseball tournament held with outside teams
1949	第2学習場2教室、外役工場完成/ 夜間教育、社会通信教育開始/Start of night education and social correspondence education
1951	brassバンドクラブ誕生/Establishment of brass band club
1952	職員食堂、缶缶室、構外グラウンド完成/Completion of Staff cafeteria, Boiler room, Outside ground
1954	第8実習場完成/Completion of No.8 Workshop 県立奈良高等学校通信制課程受講開始/Start of prefectural Nara High School correspondence course
1955	若草理容師養成所表実習所（若草理容室）開設/ Opened Wakakusa Barber Training Center
1959	高架水槽、営繕工場、第6,7,9実習場、新名誉寮、接見所、綿打工場完成/ Completion of Elevated water tank, Maintenance workshop, No.6,7,9 Workshop, new accommodation "Meioryo", Contact room, Scotchling workshop
1960	教室、体育館完成/Completion of Classroom and Gymnasium 保護者会開催/Prisoner-Parent-teacher conferences held
1962	第12実習場完成/Completion of No.12 Workshop
1964	総合職業訓練施設指定/ It was designated as General vocational training facility
1968	サッカークラブ県リーグ加盟/Joined the soccer club prefecture league
1970	新入浴場、新待機室完成/Completion of new bath room and waiting room
1972	浄化槽装置完成/Completion of Septic tank equipment
1973	有隣館完成/Completion of "Yurinkan"
1974	貯水槽（プール）、於図書室前庭に禽舎（遊鳥の家）完成/ Completion of water storage tank, Poultry house in front of the former library
1976	於医務課前に新希望寮完成/Completion of new accommodation "Kibouryo" in front of the former medical room
1977	若竹寮開設（半開放処遇寮）/ The accommodation "Wakatake" opened (semi-release treatment)
1981	宿舎新営工事竣工/Completion of new accommodation construction 1寮上下の渡り廊下及び更衣室完成/Completion of the upper and lower passages of No.1 accommodation, locker room
1984	農耕工場新設/Completion of new agricultural factory
1985	第14実習場完成/Completion of No.14 workshop
1994	表門改修工事竣工/Completion of the front gate repair work
1995	新体育館完成/Completion of the new Gymnasium
1996	職員宿舎4棟、所長宿舎、体育館、職員待機所、職業訓練棟、グラウンド拡張、西外塀移設の新営工事完成（総工費約17億円）/Completion of new 4 staff dormitories, director's dormitory, gymnasium, staff waiting area, vocational training building, ground expansion, relocation of western wall (total construction cost about 1.7 billion yen)
2017	廃庁/Closure of Nara Juvenile Prison

3-2. 土地変遷

奈少刑は奈良中心街から北東2km程離れた小高い丘の上に位置し（Fig.6）、周囲は煉瓦造りの塀が巡らされ、敷地は約10万平米の広さを持つ。奈少刑とその周辺地域の1932年から2017年までの土地変遷を、Table 2と対応させた配置図として作成した（Fig.2）。1932年配置図は司法省資料²⁵⁾より作成、1985年、1997年、2017年地図はそれぞれ住宅地図から作成した。結果、1952年の構外グラウンド完成、1996年の職員宿舎、塀の拡張等の新営工事が少年刑務所の空間と周辺環境へ少なくない影響を与えた変化であると思われる。また構外グラウンドは2012年には造成地に変わり、2013年に跡地に住宅街が形成されたことも分かった。塀内は幾つか建物の増設がみられたものの、塀の拡張以外は大きな変化は見られない。他に明治末期の監獄改良事業では、監獄の敷地選定にあたり、将来相当員数の罪囚を農業に使役することの出来る余地を見込むことが目指され

Fig.2 Transition of Nara Juvenile Prison Area
(The exact boundaries could not be ascertained)

Fig.3 Collection of Nara Juvenile Prison's Photographs

ていたことも分かった²⁶⁾。従って、1932 年配置図における塀外の敷地部分は農業用に設けられていたと考えられる。

3-3. 空間構成

本節では、奈少刑の詳細な空間構成を把握する。図面作成及びヒアリング調査・分析（4 章）の精度を上げるため、奈少刑の現地調査を行った。調査日時は2018 年8 月9 日、解体工事中直後であった為ほぼ現役当時のままの様子を見学することが出来た（Fig. 3 写真集参照）。現地調査時写真、重要文化財指定説明資料²⁸⁾、旧奈良監獄見学コース図²⁹⁾、航空写真¹⁾、地理院地図 2018 を照らし合わせながら平面図(Fig. 4)を作成した^{注11)}。以下 Fig. 3, 4 を参照しつつ空間構成を記す。奈少刑は塀内の中心に五翼状の舎房が存在し、それぞれ取り囲むように実習場(Fig. 3-[6, 10]等)が配置されていた。まず煉瓦造りの門(Fig. 3-[1])をくぐると、庭園のようなエントランスがあり(Fig. 3-[2])、その北側には一般市民が利用できる若草理容室がある。舎房の東側には庁舎があり、その2 階には講堂が位置し(Fig. 3-[3])、ここでは受刑者の活動の他、職員研修なども行われていた。訪問者が入る事ができるのは基本的には講堂までであり、講堂の奥にある1 枚の木の扉を開けるとそこから舎房であり、中央看守台が見える(Fig. 3-[4])。舎房の南西にはグラウンド(Fig. 3-[5])があり、北東には体育館、出所前の受刑者が生活する釈放寮と呼ばれる居室も存在する。第 15 実習場の2 階には教室(Fig. 3-[7, 8])があり、受刑者は作業の合間にここで授業を受ける。

3-4. 重要文化財としての旧奈良監獄

旧奈良監獄の重要文化財指定部分は創建当初の煉瓦造りを中心とする建造物 17 棟、2 基と土地である(Pic. 1 点線部分)。設計は司法省営繕課長の山下啓次郎(1986~1931)であり、他にも千葉監獄、鹿児島監獄の設計も担当している²⁷⁾。意匠的価値として左右対称の整然とした配置計画や、煉瓦壁で統一された外観等が認められ、歴史的価値として明治期の監獄ではほぼ完全な姿で残る唯一の遺構であり、明治政府による行刑施設近代化の完成形を示す点が認められている²⁸⁾。また重要文化財指定と建築保存については、奈良県教育委員会の近代化遺産調査(2014 年3 月)、任意団体「奈良少年刑務所を宝に思う会(以下思う会)」の設立(2014 年10 月)、日本建築学会の保存活用要望(2015 年)、地元自治会と自治連合会による保存要望書提出(2016 年5 月)、と保存の機運が高まってきたところ廃庁が発表(2016 年7 月)、その後思う会による保存活用要望(2016 年7 月)、重要文化財指定(2017 年2 月)、という経緯である³¹⁾。

本章では文献資料に基づき、奈少刑の竣工から廃庁までの概要を把握し、1946 年の改称当時から2017 年に至るまで所内外において独自に展開されてきた処遇から、奈少刑独自の学校的側面の一部を明らかにした。特に所内外における増築・造成を含む環境形成過程図や詳細な平面図(Fig. 2, 4)は資料的価値の高いものである。

4. 旧奈良少年刑務所の学校的活動と空間の展開

本章では3 章までの基礎情報と現地ヒアリング調査を重ね合わせ、奈少刑の学校的側面の展開(1946 年~2017 年)を記述し、その特徴について総合的に考察する。

4-1. ヒアリング調査期間と調査対象者

ヒアリング調査は、2018 年1 月から12 月までの期間で行い、対象者は12 名である(Table 3)。対象者の属性に偏りが生じないよう

Fig.4 Spaces and Activities of Nara Juvenile Prison confirmed from the surveys
(For convenience of layout, this figure only shows the west on top/ 紙面の都合上本図のみ西を上に表示)

に適宜関係者に連絡を取りつつスノーボールサンプリング方式で調査協力をお願いした。

Table3 Target Information (NJP = Nara Juvenile Prison)

Date	Time	Location	Characteristics
A B	Jan. 12	2h	奈良市/Nara
C D	Feb. 10	3h	奈良市/Nara
E	Feb. 12	1.5h	奈良市/Nara
F	Mar. 12	2h	奈良市/Nara
G	Jun. 9	1.75h	橿原市/Kashihara
G	Aug. 4	2.25h	橿原市/Kashihara
A B	Aug. 16	2.5h	奈良市/Nara
H	Aug. 27	2.5h	磯城郡/Shiki
D	Aug. 29	1.5h	奈良市/Nara
I	Sep. 1	1.5h	大阪市/Osaka
J	Sep. 9	1h	京都市/Kyoto
K	Oct. 6	1h	奈良市/Nara
L	Dec. 3	2.25h	奈良市/Nara

本来刑務所に関わる情報はプライバシーやセキュリティに関わる為その詳細な実態把握は困難であるが、本調査では現役施設ではなく元刑務官・法務教官といった元関係者に詳細な実態を語ってもらう事が出来た点、廃庁直後という記憶の鮮明なうちに調査が出来た点から、新規性・独自性の高い成果が得られたと言える。

4-2. 調査方法とデータ整理の方法

調査は1対1あるいは、指導教官の同席や対象者2名同時に行う等対象者に合わせて実施した。ヒアリングは第3章の内容をふまえ、奈少刑と地域の関わり、空間の使われ方、今後の活用に対する思い等について自由に語ってもらう非構造形式で行い、円滑な会話の補助となるよう写真集³⁰⁾や地図(Fig.2,4)も活用した。得られたデータは主題から逸れた雑談等を適宜排除し、言葉と語順をそのまま再現出来るようにテキスト化、奈少刑と周辺地域の場所に関する内容を抽出した。そして指摘された場所を「a. 刑務所敷地内セキュリティ部分」、「b. 刑務所敷地内で地域住民の目に触れる部分」、「c. 刑務所周辺地域」、さらに「奈良市内」に分類し、場所ごとに図面又は地図へプロットした(Fig.2,4,5の黒丸)。a~cについては、各場所における学校的な使われ方を一覧表としてまとめている(Table 4)。

4-3. 所内外の学校的活動と空間展開

受刑者の日常は Table 1 に示した通りであり、基本的には Fig. 4 の点線矢印に示すように居室、実習場、グラウンド(a1)、教室(a6)である。Fig. 2, 4 の黒丸箇所を見ると奈少刑では所内外の場所も状況に応じてきめ細やかに使われていることが分かる。例えば Table 4 に示すように、行事や保護者会など訪問者を招く場合は講堂(a9)がよく使用され、机が必要になるクラブ活動は主にクラブ室(a7)、教誨は畳敷きの聖和室(a8)、机を必要としないクラブは講堂(a9)で行う等、内容によって柔軟に使い分けられている。これらの部屋は監獄時代に建てられた部分であるが、学校的な活動の空間への展開が確認できた。また五翼状平面によって生まれる小さなオープンスペースは石畳になっている物干し場や、少人数の運動で使用するサブグラウンド (a2-4) になり、運動会等大きな行事で使用する堀外の構外グラウンド(b7)の他にも畑(b3)、養豚場(b2)、外掃用工場(b4)等の堀外空間も柔軟に活用していたことが確認された。また、教室の一部を絨毯敷にして勉強環境を整えたり、全受刑者が通る動線上にあった居室（優遇措置を許された受刑者が生活していた）の扉を赤・黄・青に塗り（Fig. 3[11]）、受刑者のモチベーションが上がるような仕掛けをしたりする等、受刑者の為に空間的な改修を施していた。その他にも盆踊り大会の日は最後に皆でカップ米を食べてお開きをする等、制限されている日常だからこそ所内の雰囲気作りや受刑者への楽しみの提供といった工夫もあったことが分かった。また受刑者が様々な授業を受ける教室(a6)の前には池(a10)がある。この池に関して元刑務官 H は受刑者の癒しの為の空間と位置づけ、魚

Table 4 School-like activities in Nara Juvenile Prison

場所/Place	使われ方/Activities (informant or reference)
a1 構内グラウンド /Ground inside	盆踊り大会/ Bon Festival dance (H, G) 運動会/ Sports Day (G) 毎日の運動/ Daily exercise (G)
a2 サブグラウンド 1/Sub ground 1	朝礼/Morning assembly (G) 軽い運動/ Exercise (G)
a3 サブグラウンド 2/Sub ground 2	障害を持った子が利用/ For people with disabilities (G)
a4 サブグラウンド 3/Sub ground 3	精神的に辛い子が利用/For people mentally hard (G)
a5 桜 /Cherry Blossoms	観桜会/ Cherry blossom viewing party (H, G)
a6 教室/Classroom	授業/Classwork (G) a6-1, 2:午前2時間高校授業/ 2 hours High school class in the morning、a6-3:国語等の授業/Japanese language class etc.、a6-4:社会性涵養プログラム/ Program for fostering sociality (A, B)、a6-5, 6:午前11時に性犯罪・薬物の授業/ Guidance on sex crimes and drugs in the morning 観桜会来賓の控え室/ Waiting room for guests at Cherry blossom viewing party (G)
a7 クラブ室 /Club room	文化系クラブ/ non-athletic club (G) 篤面個別面接/ Personal interview with a volunteer counselor (I) 授業/Classwork (A, B)
a8 聖和室/ Japanese style prayer room	宗教系クラブ/ Chapel activities (G) 教誨/ preach (H) 授業/Classwork (G)
a9 講堂/Lecture Hall	文化系クラブ/ non-athletic club (G) 成人式/ Coming-of-age ceremony (G) 保護者会/Prisoner-Parent-teacher conferences (G) 保護者会前 brassバンド演奏/ Brass band performance in front of parents (G) 彼岸会/Buddhist services during the equinoctial week (G) 映画上映会/Movie screening with local people (L) 篤面集団指導/Group guidance by a volunteer counselor (I) 授業や文化祭/Classwork and School festival (H) 通信制課程入学・卒業式/Entrance and Graduation ceremony of correspondence education (G) 職業訓練入退所式/Entering and Leaving ceremony of job training (文献 15/reference15)
a10 池/Pond	魚の世話や受刑者の癒しに/ Caring for fish, to heal (H)
a11 プール/Pool	水泳大会/ Swimming competition event (G)
a12 体育館/Gymnasium	講演や集会/Lecture and Meeting (G)
b1 無縁墓地 / Unrelated cemetery	月1回のお参り/To pay a visit to here once a month (L)
b2 養豚場/ Pig farm	作業/Work、担当者は豚出産時に養豚場で寝泊り/The person in charge sleeps at the pig farm when the pigs gave birth. (H, L)
b3 畑/Field	作業/Work (G)
b4 外掃用工場 /Workshop for sweeping	釈放前指導・掃除/Guidance before release・sweeping (G, H)
b5, 6 川、土手/ Waterway and bank	受刑者が手入れ Care by prisoners/ (K)
b7 構外グラウンド /Ground outside	野球サッカーの一般交流試合/ Exchange match of baseball or soccer between prisoners and local people (G, H, F) 運動会/ Sports day (L, F) ボーイスカウト野営訓練/Boy Scout Camp Training (G) 般若寺の少年野球チームが使用/ Used by the boys baseball team of Hannayaji (D) 1960 年 保護者会/Prisoner-Parent-teacher conferences in 1960 (文献 15/reference15) 毎日の運動/ Daily exercise (G)
b8 表門前広場 /Square in front of the front gate	1949 年～1955 年頃、職員と地域住民で盆踊り大会/Around 1949 to 1955, the Bon Festival dance with staff and local residents (L) 地域の子供達の遊び場/Local children's playground (C, D)
b9 表門/Front gate	小学生が写生/ Sketched by elementary school students (C, D)
b10 エントランス /Entrance	矯正展/Correction exhibition (A, B, G, L) 1972 年保護者会/ Prisoner-Parent-teacher conferences in 1972 (文献 15/reference15)
b11 理容室/Barber	職業訓練として一般客の散髪/Prisoners do haircuts for ordinary customers as a vocational training (A, B, C, D, H, F)
c1 般若寺 / Hannayaji temple	草引きや花植えや掃除などの奉仕活動/ volunteer activity, weeding, flower planting, cleaning, etc. (A, B, C, D, F, G, L)
c2 般若寺宝蔵 / Warehouse of Hannayaji temple	昭和初期、看守に借家として2、3軒貸していた/In the early Showa period, Hannayaji temple rented a few houses to the guards (F)
c3 至徳会 / Rehabilitation facility Shitokukai	出所後身寄りの住居の無い子が一時的に生活する。多い時は30名/ People without home lived here after release. Maximum 30 people (K)
c4 県道沿い / Along the prefectural road	至徳会の子供が掃除や草刈りをする/ People in Shitokukai cleaned and mowed (C, D)
c5 東之阪町 / Higashinosaka town	昔は建設会社が多く存在し、出所した子を雇ってくれた/ There were many construction companies in the old days, and they hired the people released (K)
c6 共同浴場 / Public bath	至徳会の子供が仕事帰りに寄っていた/People in Shitokukai were coming after work (K)
c7 お好み焼き屋 /Okonomiyaki	至徳会の子供が仕事帰りに寄っていた/People in Shitokukai were coming after work (K) 面会までの時間に家族が食べにくる/The family came to eat before the visit (K)
c8 興善院町 /Kouzenin town	昔は看守が住んでいた/The guards lived here in the old days (L)
c9 差し入れ屋 /Shop for post to prisoner	現在は存在しないが、家族らが生活用品などを持って行った /Families brought here daily necessities. It doesn't exist now. (F, K)

Fig.5 Area around Nara Juvenile Prison

Fig.6 Destination of excursion from Nara Juvenile Prison

を飼い、「皆癒しの為に。生き物を飼うっちゃう、（中略）障害者でね、もう生き生きして世話してる子がおるんですよ。水のやりかえとかね。だから本来ならこの時間は作業の時間だけど、（中略）その子の癒しの為にこっちは黙認してね、やとったんです。」と語る等、一人一人を大事にしようという気持ち（J）で更生教育に取り組み、少年をいかに立ち直らせるか意識した学校的な雰囲気（AB）はヒアリングをした元関係者から共通して確認できた。これには初犯の受刑者が多かったこと、少年院を経験した所員ら^{注12)}の取り組みも大きいという（G）。

次に3章で触れた一級者等活動に加え、所外の奉仕活動先について整理するとFig. 5、6 のようになる。近隣の般若寺(c1)をはじめ、若草山、奈良公園、東大寺、春日大社、平城宮跡といった奈良の名所に赴いていたことがわかった。また眺望に関して、講外グラウンド(b7)や所内の第2実習場等から若草山、講堂(a9)やクラブ室(a7)等から東大寺が見えたことも明らかとなっている。これらは奈少刑が半径2km圏内にこれらの地域資源が多くある市街地に位置し、小高い丘の上に立地していたことによる。少年受刑者が社会と完全に断絶されたと感じないような工夫の必要性は2章で確認したが、奈少刑ではこうした立地条件から受刑者が奈良という土地を日常的に感じられたことも特筆すべきことであると思われる。

4-4. 地域社会との関わりと地域受容

本節ではヒアリングで語られた事に基づいて、地域社会との関わりや地域受容に関して考察する。明治末期に刑務所が移転してくる時、地域住民の中には反対する者もいたという(L)。実際、少年刑務所改称後も昭和40年代前半頃までは脱獄者や暴力団員の出所等もあり「サイレンが鳴ったら住民は早いとこ戸締りした(L)」。しかし少年刑務所の発展と共にトラブルは減少し、少なくとも昭和47年から平成17年の間は地域からの移転要望はなく(H)、地域からの一定の理解を得られてきたと思われる。奈少刑は塀の中に庁舎があり、その2階講堂(a9)の奥に行刑区域との境界が存在している為(Fig. 4 ★Boundary)、訪問者は門をくぐり塀の内側まで入ることが出来た。具体的には理容室の一般開放(1955年開設、多いときは1日30、40人の利用)、講堂(a9)での受刑者向け映画上映会における地域住民の参加(昭和30年頃)、エントランス(Fig. 3- [2])での刑務作業作品販売や外部機関・地元自治会によるブース出展もある矯正展開催(1991年より実施)等、地域社会との接点が塀の内部にもつくられた。これは治安的にも奈少刑の収容状況がよかったことも関係している(H)。また塀の外では、構外グラウンド(b7)の完成(1952年)は地域社会との接点となり、受刑者と地域住民のスポーツ交流試合の実施に至った。「グラウンドが外にあったので、一般の方を入れても中を見られるデメリットは無かった(H)」事は大正末期以降の区域分けされた刑務所では実現しない特殊な状況であったと言える。元法務教官Gによると刑務所を地域に開くという考えはなく、「昔から自然と地域に開いていた(G)」という。特に般若寺町、興善院町、東之阪町を含む奈少刑周辺地域(Fig. 5)における密接な関係性は特筆すべきである。出所後に引き取り手が無く自立更生できない少年が一時的に生活する至徳会(c3)は般若寺町の自治会に属し、地域の一員として町内活動として県道清掃や草刈りにも参加した。かつて東之阪町には建設会社が多く(K)、出所者の雇い入れを行い、仕事帰りに近所の共同浴場(c6)とお好み焼き屋(c7)に寄るという関わり

もあった。また刑務所職員の多くが周辺地域に借家で住み、職員と地域住民による無縁墓地(b1)参りや、昭和初期には職員を通じて住民が豚肉(養豚場(b2)飼育)や家具(受刑者が作業で作成)等を購入するという地域との関わりもあった。これらは一例に過ぎず、地域にとってのメリットと地域の人たちとの円滑な人間関係(J)もあって、所内外の様々な場所が奈少刑と地域社会との交流の舞台となっていた。

本章では、ヒアリングを通して奈少刑の学校的活動と空間の具体的な対応を記述し、また地域社会との関わりや地域受容について特徴を示した。Fig. 7は約70年の中で敷地を伸縮しつつ、明治期の監獄建築に対して少年刑務所プログラムを展開させてきた奈少刑において、本現地調査で実際に学校的活動が確認された空間をプロットしたダイアグラムである。重要文化財指定箇所は主に舎房と庁舎(講堂含む)であり、多くの学校的活動はそれ以外の部分で行われていた。奈少刑は、川越(Fig. 1)と比べて塀の内側まで訪問者が入ることができたこと、グラウンド等塀の外側も使われていたこと、監獄建築特有の五翼状舎房が生み出したオープンスペースの活用や各種施設配置、職員らが共通してもつ教育理念に基づく空間的改修、奈良市内の丘の上という立地等の特徴を有し、これらは受刑者への心理的な影響を与えたことも推察される。

Fig.7 The Confirmed space of school-like activities in Nara Juvenile Prison

5. 結論

本稿は、少年刑務所の有する学校的側面に着目し、廃庁直後の旧奈良少年刑務所における文献調査、現地調査及び元関係者らや地元住民へのヒアリングを通して、一般に実態把握が容易ではない刑務所建築の土地変遷(Fig. 2)や空間構成(Fig. 4)を図示し、及び具体的な活動と空間の対応を明らかにした(Table 2, 4, Fig. 2, 4, 5, 6)。明治監獄建築が少年刑務所として使われるようになった経緯をもつ奈少刑について本研究で得られた知見は以下である。

- 少年刑務所は1922年の発足当初から、少年受刑者の特性に合わせた教育を重視する学校的側面があり、奈少刑も改称当初から醸成されてきた教育理念に基づく職員による呼称の工夫、受刑者の為の空間改修など、標準的な処遇に留まらない独自

の環境形成が確認できた。

- 大正末期以降の庁舎一行刑区域、工場一舎房区域が分けられた刑務所とは異なり奈少刑は塀の内側に境界をもち、改称以降所内外に段階的に増築し複雑な配置となった。特に、近代監獄特有の五翼状舎房が生み出したオープンスペースの柔軟な活用と施設配置、グラウンドをはじめ塀の外側も使われていたこと、等の特徴がある。
- 奈少刑周辺地域との密接な関係性や所内外での地域社会との交流機会は、初犯の受刑者が多かったことや収容状況がよかったこと、地域受容と無関係ではなく、少年刑務所改称後に徐々に醸成されたものであった。
- 近隣に地域資源を有する奈良市内に位置し多くの名所に訪問していたこと、丘の上という立地から所内からも名所が眺望できたこと等、少年受刑者が奈良という場所を認識でき、社会との接点を持つことが出来る環境も特徴の一つであった。

以上のように、旧奈良監獄は少年刑務所としての活動・空間の展開を可能とし、重要文化財に指定されなかった多くの空間が奈少刑の学制的側面の舞台であった。

謝辞

本研究においてヒアリング調査にご協力頂いた各関係者の皆様、少年刑務所見学にあたりご尽力頂いた法務事務官の皆様、川越少年刑務所の皆様、その他資料提供等でご協力頂いた法務省矯正局の皆様、この場を借りて感謝致します。

参考文献

- Ministry of Justice website: About operation business such as public facilities concerned with preservation and utilization of old Nara prison [Translated from Japanese.], Panoramic photo (accessed 2020.7.10)
法務省 HP「旧奈良監獄の保存及び活用に係る公共施設等運営事業について」全景写真 (2020. 7. 10 閲覧)
- Tomohiro KUNO, Hiroyuki HONAMI: The History of Treatment at Nara Juvenile Prison, Volume 128-2 of The Japanese journal of correction (Keisei), pp.40-47, 2017.02
久野友寛, 穂波宏行: 特集／奈良少年刑務所処遇の歩み, 刑政 128 巻 2 号, 矯正協会, pp. 40-47, 2017. 02
- Itsuki Takenaka, Ministry of Justice: Overview of Operations in the Penal Institution [Translated from Japanese.], the Legal Council Juvenile Law/Criminal Law (juvenile age/criminal treatment relations) Subcommittee 1st Subcommittee 2nd Meeting Handout (accessed 2020.7.10)
竹中樹: 刑事施設における業務の概要, 法制審議会少年法・刑事法 (少年年齢・犯罪者処遇関係) 部会第 3 回会議配布資料, 法務省 (2020. 7. 10 閲覧)
- Ministry of Justice: Regarding the treatment of prisoners [Translated from Japanese.], the Legal Council Juvenile Law/Criminal Law (juvenile age/criminal treatment relations) Subcommittee 1st Subcommittee 2nd Meeting Handout (accessed 2020.7.10)
受刑者に対する処遇について, 法制審議会少年法・刑事法 (少年年齢・犯罪者処遇関係) 部会第 1 分科会第 2 回会議配布資料, 法務省 (2020. 7. 10 閲覧)
- KENCHIKU SHICHO KENKYUJO: Data File of Architectural Design & Detail No.105 School 3, Kenchiku Shiryo Kenkyusha, p4, 2006.06
建築思潮研究所: 建築設計資料 105 学校 3, 建築資料研究社, p4, 2006. 06
- Yoshifumi NISHIHARA, Takasuke WATANABE, Takao MURATA: A

Study on the Allocation Characteristics of Prisons since Meiji Era in Japan, City planning review. Special issue, Papers on city planning, pp.469-474, 1995.11

西原義文, 渡辺貴介, 村田尚生: 明治以降の日本における刑務所配置の特性に関する研究, 日本都市計画学会学術研究論文集, pp. 469-474, 1995. 11

- Emiko KAMEYA, Makoto SAKURAI: A simple study on analyzing prison spatial architecture in modern Japan, No.46 of Kobe City College of Technology (KCCT) Journal, pp.87-94, 2008.03
亀屋恵三子, 櫻井誠: 近代日本における監獄建築の空間分析に関する基礎的研究, 神戸高専研究紀要第 46 号, pp. 87-94, 2008. 03
- Ayaka SATO, Toshio SAKIYAMA: Study of Relationship between the city and the prison in modern Japan -The case of Akita city, No.75, Proceedings of AIJ Tohoku Chapter Architectural Research Meeting, pp.135-138, 2012.06
佐藤彩夏, 崎山俊雄: 近代日本における刑務所建築と都市の関係性に関する研究 -秋田刑務所を対象として-, 日本建築学会東北支部研究報告集, 計画系第 75 号, pp. 135-138, 2012. 06
- Reimi SEKIGUCHI: Machizukuri in Isahaya city and dismantling of former Nagasaki Prison [Translated from Japanese.], Geographical Fieldwork Nagasaki Area survey, pp.101-115, 2009.03
関口玲美: 諫早市のまちづくりと旧長崎刑務所の解体, 地理学フィールドワーク長崎の地域調査, pp. 101-115, 2009. 03
- Tsutomu YOKOTA: The relationship between penal institutions and the communities in which they are located - A case study of activities in Hokkaido, theses (doctoral), Hokkaido University, 2014.09
横田勉: 行刑施設とそれが置かれる地域との関係性-北海道での取り組みを例として-, 北海道大学博士論文, 2014. 09
- Yoshihide ONO: Japanese history of executions (13)- " Juvenile Prison" and " Juvenile correctional administration " (Part 1) [Translated from Japanese.], Volume 114-12 of The Japanese journal of correction (Keisei), pp.54-60, 2003.12
小野義秀: 日本行刑史拾遺 (13) - 「少年刑務所」と「少年行刑」(前), 刑政 114 巻 12 号, 矯正協会, pp. 54-60, 2003. 12
- Yoshihide ONO: Japanese history of executions (13)- " Juvenile " and " Juvenile correctional administration " (Part 2) [Translated from Japanese.], Volume 115-1 of The Japanese journal of correction (Keisei), pp.90-100, 2004.01
小野義秀: 日本行刑史拾遺 (13) - 「少年刑務所」と「少年行刑」(後), 刑政 115 巻 1 号, 矯正協会, pp. 90-100, 2004. 01
- PENAL INSTITUTIONS IN JAPAN: Correction bureau, Ministry of Justice (<http://www.moj.go.jp/content/000079580.pdf>)(accessed 2020.7.10)
日本の刑事施設, 法務省矯正局 (2020. 7. 10 閲覧)
- Kazuhiro HAYASHI: The Present Situation and Problems of Corrective Education in Kawagoe Juvenile Prison [Translated from Japanese.], No.155 of Crime and delinquency, The Hitachi Global Foundation, pp.34-54, 2008.02
林和浩: 川越少年刑務所における矯正教育の現状と課題, 犯罪と非行 No. 155, 日立みらい財団, pp. 34-54, 2008. 02
- List of Correctional Institutions in Japan: Correction bureau, Ministry of Justice (http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei_kyousei16.html)(accessed 2020.7.10)
全国矯正施設一覧, 法務省矯正局 (2020. 7. 10 閲覧)
- HORIKIRI Sayumi, YAMAZAKI Taisuke: New Design and Planning Policy of Prisons Reflected on Office Buildings around 1930s, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, History and Theory of Architecture, pp.163-164, 2017.07
堀切沙由美, 山崎鯛介: 昭和初期の刑務所庁舎に示された行刑建築の新しいあり方, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp.163-164, 2017.07
- KANEKO Yoko: Cooperation with Related Organizations in Kawagoe Juvenile Prison [Translated from Japanese.], Crime and

- Punishment Volume 44-2 ,Japan Criminal Policy Society, pp.24-31, 2007.03
金子陽子: 川越少年刑務所における関係機関との連携について、罪と罰第 44 巻 2 号, 日本刑事政策研究会, pp24-31、2007.03
- 18) Nara Juvenile Prison 70 Years History, Nara Juvenile Prison, 1978
奈良少年刑務所七十年史, 奈良少年刑務所, 1978
- 19) 90th Anniversary Publication, Nara Juvenile Prison, 1998.12
90 周年記念誌, 奈良少年刑務所, 1998.12
- 20) Mitsuteru AKIHO: Implementation status of "education" at Nara Juvenile Prison [Translated from Japanese.], No.165 of Crime and delinquency, The Hitachi Global Foundation, pp.29-48, 2010.08
秋保光輝: 奈良少年刑務所における「教育」の実施状況について、犯罪と非行 No. 165, 日立みらい財団, pp.29-48, 2010.08
- 21) Soccer Club of Nara National Research Institute: History of Nabunken Soccer Club, pp.41-42, 1993.05
奈良国立文化財研究所サッカー部: 奈文研サッカー部の歩み, pp. 41-42, 1993.05
- 22) Masaya UCHIDA: The dream of Tadashi Wakabayashi: the idea of professionalism [Translated from Japanese.], Sairyusha, pp.11-34, 2011.01
内田雅也: 若林忠志が見た夢 プロフェッショナルという思想, 彩流社, pp. 11-34, 2011.01
- 23) Tadashi MORISHITA: Young prison experience people [Translated from Japanese.], SAKAI, pp.205-26, 2011.04
森下忠: 若き志願囚, 酒井書店, pp. 205-266, 2011.04
- 24) Seiji OZAWA: Prison Administration in Modern Japan, NIPPON HYORON SHA CO.,LTD, pp.358-368, 2014.4
小澤政治: 行政の近代化 刑事施設と受刑者処遇の変遷, 日本評論社, pp. 358-368, 2014.4
- 25) Ministry of Justice: Layout of each prison building in 1932, pp.41-42, 1932
司法省: 各刑務所建物配置図 | 1932 年現在, pp. 41-42, 1932
- 26) Kiichi YAMADA: Correction Red Brick Architecture-Notes on Nara Prison Construction [Translated from Japanese.], Volume 89-7 of The Japanese journal of correction (Keisei), pp.52-59, 1978.07
山田喜一: 矯正の赤煉瓦建築-奈良監獄誕生ノート-, 刑政 89 巻 7 号, 矯正協会, pp. 52-59, 1978.07
- 27) Satoshi NISHIOKA: Special Features/ The Significance of Old Nara Prison(Nara Juvenile Prison) as an Important Cultural Property [Translated from Japanese.], Volume 128-2 of The Japanese journal of correction (Keisei), pp.48-57, 2017.02
西岡聡: 特集/旧奈良監獄(奈良少年刑務所)の重要文化財指定の意義, 刑政 128 巻 2 号, 矯正協会, pp. 48-57, 2017.02
- 28) Agency for Cultural Affairs: Important cultural property (building) designation explanation document, pp.105-130, 2016.10
文化庁: 重要文化財(建造物)指定説明資料 平成 28 年 10 月答申, pp. 105-130, 2016.10
- 29) Nara City Website, "About the implementation of the former Nara prison visit tour" Former Nara prison visit course
<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1484203372653/simple/29052901.pdf> (accessed 2018.01.11)
奈良市 HP「旧奈良監獄見学会の実施について」旧奈良監獄見学コース(2018.01.11 閲覧)
- 30) Michio KAMIJYO, Michico RYO: Beautiful Prison - Nara Juvenile Prison, a brick architecture of the Meiji era, Nishinihon Publisher, 2016.11
上條道夫, 寮美千子: 写真集 美しい刑務所 明治の名煉瓦建築 奈良少年刑務所, 西日本出版社, 2016.11
- 31) Naramachitushinsha Website, Volunteer group for conservation of Nara Juvenile Prison, a Modern architecture
<https://narapress.jp/naraprison/activity/> (accessed 2020.7.10)
ならまち通信社 HP「近代の名建築 奈良少年刑務所を宝に思う会」(2020.7.10 閲覧)

注

注1) 建築設計資料⁵⁾では、学校教育とは「一人ひとりの力や可能性を大切に

- 育てる」ことを基本とし、その基本的目標として「より充実した柔軟性の高い教育空間、安心して学習に取り組み、学校生活が送れる教育環境、地域を支え地域に支えられる学校を実現する」ことがあげられている。
- 注2) 奈少刑廃庁後、現在国内の少年刑務所は 6 施設(函館、盛岡、川越、松本、姫路、佐賀)である。明治竣工建築の奈良少年刑務所と異なり、6 施設は全て大正末期以降に移転建築された施設である。そのうち函館・川越・佐賀の 3 つが、2017 年の奈少刑と同様に、主に犯罪傾向の進んでいない 26 歳未満の受刑者(YA 指標)や 20 歳未満の受刑者(JA 指標)を収容し、総合職業訓練施設に指定されている。さらに川越は、平成 29 年時点で 20 歳未満の受刑者割合が最も高く⁴⁾、先駆的な教育の取り組みに関して「西の奈良、東の川越」と称されることもあったという³⁰⁾。尚、受刑者の収容人数は奈少刑が約 700 人、川越では約 1500 人であり、国内最大規模である¹⁵⁾。
- 注3) 処遇という言葉の意味は、日本大百科全書には「広義には、犯罪者の人格を考慮した取扱い」とある。また、刑事収容施設法第 30 条では、「受刑者の処遇の原則」として「受刑者の処遇は、その者の資質及び環境に応じ、その自覚に訴え、改善更生の意欲の喚起及び社会生活に適応する能力の育成を図ることを旨として行うものとする」とある。本研究では、受刑者を対象とした扱いや取り組みを「処遇」と呼ぶ。また少年刑務所の「活動」とは処遇を始め、地域社会との関係作りや職員の工夫も含めた取り組みを総括して呼ぶものである。
- 注4) 日本では刑務所、少年刑務所、拘置所を総称して刑事施設と呼ぶ¹³⁾。
- 注5) 調査は川越少年刑務所職員 2 名の案内による所内見学、見学後庁舎での説明およびヒアリングである。録音による記録が不可だった為、見学時の説明内容は文書化と地理院地図への書き込みによる記録を行い、ヒアリング内容はその場で適宜メモし、後日文書化した。事実と相違ないように記録内容は複数人で確認した。
- 注6) 具体的には、更生保護女性会・BBS・ライオンズクラブ・ロータリークラブ・公立図書館等との関わりで各種行事、学校公益法人との関わりで通信教育や、社会福祉施設や民間企業、介護老人ホームに社会見学や奉仕作業へと赴いていた。
- 注7) 奈少刑の矯正処遇官である久野氏によると「刑務所でありながら教育機能的な側面を強く有する」という²⁾。尚、少年受刑者が倍程度収容されている川越よりも教育専門官が配置されていることは高密度な教育体制であるといえよう。
- 注8) 例えば平成 10 年時点ではサッカーや野球といった体育系だけでなく、パソコン、書道、英会話、美術等の文科系のものもある¹⁸⁾。プラスバンドクラブについては、昭和 26 年から 30 年にかけて所外演奏の記録が多く見られ、サッカークラブが県リーグに加盟(昭和 43 年)し、一般社会人と試合を行った記録も見られる²¹⁾。野球部についても、「大和クラブ」というチーム名で、少なくとも 1960 年頃から平成 3 年まで対外試合を行っていたとされる²²⁾。
- 注9) スポーツ大会、観桜会(昭和 32 年)、盆踊り大会(昭和 40 年)、文化祭(昭和 54 年第 1 回開催)、矯正展(平成 3 年第 1 回開催)等。
- 注10) 昭和 8 年から平成 18 年までは「行刑累進処遇令」が運用され、受刑者を 4 等級に分類し、級が昇進するごとに処遇内容が優遇され、1 級者には集団散歩を行うことなどが許されていた²³⁾。なお、この制度は内容を改変しながらも、「制限の緩和・優遇措置」として現在も続いている¹³⁾。1 級者の活動には、集団散歩で奈良名所見学(昭和 22 年)や、奈良博物館考古展覧会見学(1948 年)の実施、甲子園見学(1954 年)など、奈良の文化をはじめとして、一般社会に触れる機会が多く用意されていた他には、若竹寮生や通信高校生を対象に、平城宮跡や信楽焼見学、木津川水泳などの野外活動の実施や、工場内から若草山山焼きの見物を行うなどの行事があった²⁾。
- 注11) グラウンド、理容室、拘置監の単独・共同・女子の区別、狂躁監、第四寮附設の検身場については、現地調査時の説明をもとに場所名を追記している。また、第六寮と病舎の位置については現地調査時の説明をふまえて両者の位置を逆転させて記入している。植栽配置は旧奈良少年刑務所所長室に設置されていた模型(現地調査時撮影)と航空写真¹⁾をもとに、各実習場の内壁は現地調査時説明と写真をもとに推測で描いた。また、見学コース図の配置を基本として外壁を描いたのち、重要文化財指定説明資料²⁸⁾を参照しながら内壁を描いたため、重要文化財指定部分については説明資料の寸法と差が生じている。
- 注12) 少年院は刑の執行を伴わないため、少年刑務所以上に教育的側面が強い。

A STUDY ON ENVIRONMENTAL FOSTERING OF NARA JUVENILE PRISON FROM THE PERSPECTIVE OF “SCHOOL”

-Adaptation of Juvenile Prison Program in Modern Prison Architecture-

Hiroto OTA ^{*1}, *Izumi HARA* ^{*2} and *Kiyoko KANKI* ^{*3}

^{*1} Senior Lecturer, Faculty of Eng., Musashino Univ., Dr.Eng.

^{*2} Nikken Sekkei Ltd., M.Eng.

^{*3} Prof., Graduate School of Eng., Kyoto University, Dr.Eng.

This study aims to reveal the value of Nara Juvenile Prison other than the important cultural property architecture. Nara Juvenile Prison was established in 1908 as one of the five Meiji prisons and was renamed Nara Juvenile Prison in 1946. It is a special facility that has been used at the same site for 109 years until it closed in 2017. Furthermore, in 2017, the Nara Prison Building, which was built in the Meiji era, was designated as an important cultural property, and other parts have been demolished, and it is currently being renovated as an accommodation facility. The prison architecture as a cultural property building tends to attract attention, but it is important to evaluate the architecture, including the juvenile prison era, which occupied 70 years of the 109-year history. From the perspective of “school”, we have investigated the adaptation process of the school-like activities and spaces in the prison architecture through literature surveys, field surveys and hearings. This research deals with the rare case of prison architecture, and is highly unique in the following points. One is that we were able to understand the actual condition of Nara Juvenile Prison through a survey just after the closure, and the other is that we can understand the relationship between prison function and space by referring to the field of law. The following is a summary of each chapter.

In Chapter 2, we organized general juvenile prisons based on the Ministry of Justice literature. And as a representative of general juvenile prisons, we conducted a field survey at the Kawagoe Juvenile Prison to understand the relation between activities and spaces. Chapter 3 clarified the history, land transition, and floor plans of Nara Juvenile Prison, and showed that it was a special facility that changed from prison architecture to juvenile prison. It revealed that the Nara Juvenile Prison provided superior educational guidance compared to other juvenile prisons and that the prison function was adapted in relation to the local community. Chapter 4 clarified in detail the actual usage inside and outside the prison through an interview survey. The target of the survey was 12 persons including those involved such as Former instructor, Former prison officer, Former volunteer counselor and local residents. The results obtained in the previous chapters were put together to present the multi-layered value of Nara Juvenile Prison.

As a result, we could find the school-like activities in many spaces that were not designated as the important cultural properties and depict the formation of the environment and the detailed spatial composition connected with the activities, which are valuable materials. The prison architecture had spaces that could flexibly respond to “school-like” activities and its unique environment was related to its treatment based on the educational philosophy from 1946, its spatial configuration that was not seen in prisons after the end of the Taisho-era, its location on a hill in Nara City, the fact that Juvenile inmates were mostly first-time offenders, and security was good, and its acceptance by the local community.

(2020年7月10日原稿受理, 2021年2月1日採用決定)